

令和6年度和歌山県普及指導計画実績発表会における評価・意見結果

- 1 目的：普及指導員が地域の農業振興及び担い手の育成・支援のために行った普及活動の取組実績を発表し、その取組及び実績に対して、和歌山県農業改良普及連絡協議会員からの幅広い意見や評価を受け、次年度以降の取り組みに反映させる。

2 実績発表会の概要

(1) 日 時：令和7年3月21日（金）13:30～16:15

場 所：和歌山県民文化会館 大会議室

(2) 出席者：和歌山県農業改良普及連絡協議会員（14名出席）、各振興局、経営支援課協議会員の構成

分 野	人 数
先進的農業者	1名
若手または女性農業者	1名
農業関係団体	5名
消費者	1名
学識経験者	1名
マスコミ	1名
民間企業	1名
行政	3名

(3) 発表内容

令和6～8年度普及指導計画 重点プロジェクトの実績報告

NO	振興局	課 題 名
1	海 草	若手生産者を中心としたいちご産地の再興
2	那 賀	次代を担ういちご生産者の確保・育成
3	伊 都	伊都地域の将来を見据えた担い手対策
4	有 田	有田みかん産地 産地受入協議会を軸とした新規就農者の確保及び育成支援
5	日 高	クビアカツヤカミキリ対策の強化とうめの安定生産による産地強化
6	西牟婁	うめの超省力枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持
7	東牟婁	いちご産地の維持活性化 やる気のある産地づくり

3 評価結果：

(1) 会員からの活動実績及び普及指導計画への提言

○新規就農者への支援について

- ・新規就農者が経営難に陥ることがないようにフォローをお願いする。
- ・新規就農対策は大事だと思うが、やはり自家就農を増やすことも重要なので両面から取り組んでいただきたい。
- ・新規参入による就農では、倉庫がないことが障壁となって就農できない事例もあることから、空倉庫やその経営を引き継げるような支援方策について検討いただきたい。
- ・農業体験や農作業求人のPRにより農業労働者確保、さらには就農と導いていけるような対策を検討いただきたい。きちっとした仕組みを作っていけばうまく回っていく可能性が出てくる。

○技術的課題の解決について

- 梅のカットバック処理は必要な技術だとは思いますが、一番の問題は改植が進んでいないこと。カットバックだけでは対応できない老木が増えているので、事業の活用を含め強く改植を推進されたい。
- 新しい技術を導入しても基本的な栽培技術が身についていなければ意味が無いので指導をお願いします。
- クビアカツヤカミキリの蔓延防止は必要だが、完全に押さえ込むことは難しいと考える。今後も国と連携し、共存対策を含めた取組の強化を願いたい。

○農業経営への指導について

- ハウスや資材が高騰しており今後も高くなると思うので、経営的な視点を持って次につなげていてもらいたい。特に新規就農者にとっては、経営規模と融資の返済計画等を考慮することが重要。
- 兼業農家での経営モデルの作成は難しいと思うが、内容を十分に精査して作れば、非常に良いものになると思うので、じっくり考えて取り組むべき。

(2) 普及全般への要望・意見

- 3年間の計画の初年度ということで、成果が明確に出るのはこれからかなと思ったところ。ただこれまでと少し違ったところは、例えば那賀の就農ガイドブックに関し、「うちの地域にもあるのか」「その地域で応用していこうじゃないか」と、課題を超えて県内で活用できるような話ができたと。これは非常に大きなことだなと思っている。また、新規就農対策では、地域ごとの意見交換ができ、課題が一つの地域の中で留まらないということが非常にいいと思った。
- 就農ガイドブックのような良い事例は、各地で活用できるよう情報共有をお願いしたい。
- 多様な担い手を確保していかないといけないというのは事実かなと思っている。一方でそれぞれ第三者継承にはこういう課題がある、親元就農にはこういう課題がある、新規就農で外から呼んできた場合にはこういう課題があるということをきちっと整理して、それぞれ地域でどういう担い手を育成していくのか考えていかないといけない。
- このような会で現場の問題について声としてあげ続けることは重要で、農業者やJA、県、大学等で連携して課題解決に取り組むことにより解決策が出てくる。
- 本日発表のあった課題は、非常に重要なことばかりではあるが、最近の気候変動や世界情勢というものは、急激に動いている。3年間の計画に沿って取り組むことも重要だが、世の中の動きに合わせて課題も少しずつ動かしていくことも必要かと思ったところ。その辺り世の中の情勢等を見ながら課題についてしっかり取り組んでいただけたらなと思う。